

松本市教育研修センターだより

No.31 令和6年10月31日

実りの秋、学びも深まる研修シーズン！

スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋…と、様々な「秋」がある中で、先生方も学びを深める秋を迎えました。10月に行われた教育研修では、11の講座が開講され、先生方はそれぞれの「学びの秋」を満喫しました。

今回は、これからの時代で大切にしたいデジタルシティズンシップ教育研修とカリキュラムマネジメント研修、そして探究県ながののとして探究的な学びのモデル校である風越学園の視察を中心に、研修の様子をお伝えします。

デジタルシティズンシップ教育

10月3日（木） 昨年に引き続きデジタルシティズンシップ（以下DC）教育研修が行われました。

講師の今度珠美先生は「DC教育は、デジタルメディアを窓口にした『シティズンシップ』（公共性：市民として社会に積極的に参加する知識や能力）の教育です」と定義を示されたうえで、DC教育で大切にしたい点を、次のように話されました。

DC教育では「**心情・態度**」ではなく「**行動規範**」を学びます。トラブルが起これば、多くの場合、大人は近くにいません。その時に「立ち止まり、考え、相談する」ことで、望ましい対処が可能になる。そのための「知識」を「ジレンマ」や「対話」を通して子どもが確かに身につけることが大切です。**知識こそが子どもを立ち止まらせるのです。**

また、DC教育では「**言葉**」を大切に扱います。例えば「責任」とは？こうして言葉の定義をはっきりさせ、その意味を共有することで、様々な状況に応じた確かな判断ができるようになるのです。

研修の後半は、具体的なDC教育の教材を紹介いただきながら、ワークショップ形式でDCの授業を体験しました。先生方は、学習者の立場、そして授業者の立場を行き来しながら、対話的・実感的に「責任ある行動、公正さ」といったDC教育の価値を実感されました。



【参加者の感想より】

- DCは社会に対しての自分のふるまいについて考える大きな枠の話であると知った。人権感覚を養いながら正しいメディアの使い手を育てていくことがDCであると考えた。抑圧的な指導ではなく、「上手に活用していくために」というポジティブなとらえで活用することを前提とした指導を考えていきたい。
- ぜひ学校でもやってみたいという気持ちが持てました。…周りの人を傷つけてから、全く知らなかった、の繰り返しにならないように、今回のような授業や知識を早いうちからつけられたらと思います。
- 一方的にお聴きする講義型ではなく、時々、グループで話し合う時間も交えながらの研修で、自分自身が真剣に考えることができました。
- 講座のお話の中で「知識がないことが差別を生む」といわれていたことが一番心に残りました。自分の判断も以下に「知識がない」ことで曖昧になるのだろう…と実感しました。このことは学校現場のあらゆる場面でいえることとも思いました。…先生方に伝える場を作りたいと思います。

第2回カリキュラムマネジメント研修 ～共に学びづくりをする仲間を増やそう～

10月8日、第2回カリキュラムマネジメント研修会が開催されました。この研修は、「教務主任等の悉皆研修」として今年度より位置付けられた研修です。2回目となる今回は、「組織で取組むカリキュラムマネジメント研修」と題して、大阪教育大学教授田村知子先生に講義・演習いただきました。田村先生からは「カリキュラムマネジメントは、カリマネ表を作るのではなく、人を巻き込みながらコミュ

ニケーションをすることであり、究極的には、子どもの学びをマネジメントすることです」という大切なコンセプトをご示唆いただきました。講義後、参加者は、第1回の研修(5/24)後、各校で仲間を巻き込みながら挑戦した「小さな一歩の実践」をもちより、グループ協議を行い、互いの実践のよさや課題について語り合いました。その後、4人の先生方(筑摩野中 土方先生、岡田小 吉田先生、旭町中 百瀬先生、源池小 上里先生)による代表発表を行い、田村先生から4人の実践についてご講評とまとめのお話いただきました。参加された先生方は、第3回の研修(12/19)に向けて、今回の研修を受け、「二歩目のトライ」(どんな願いをもち、その願いを誰と相談して共有し、どんなプランニングをして取組み、どんな成果や課題があったか)に取組み、その実践を持ち寄り協議する予定です。



参加者の感想

- ・カリキュラムマネジメントは難しそうだと感じていましたが、コロナ禍での取組がまさにカリキュラムマネジメントだということを知り、今勤めている学校でも、難しく考えることなく実践していけそうだと感じました。そして、カリキュラムマネジメントをしていく上で大切なことは、「子どもの目線に立って、子どもの学びをよく見つめること」であることを知りました。…これから、単元配列表を基に、学年ごと単元構想を考えている段階です。是非、「子どもの目線に立って」を意識して単元構想を考え、実践していき、全職員で「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」などを共有できる研修を実施していきたいと思います。
- ・各学校の「小さな一歩の実践」の冊子や、その発表も非常に参考になりました。グループ内では、自分たちの発表を聞き合いながら、それに関わる日々の疑問や悩みなども話し合うことができ、非常にありがたかったです。また、代表発表を聞いて、特に中学のお二人の先生の努力が素晴らしく、自分ももっと頑張らないと思いました。実践したいと思ったのは源池小学校の発表の内容で、学校にもどってすぐに教頭先生に相談したところです。まだじっくりすべてに目を通すことはできていませんが、すべての学校の発表を冊子にして配ってくださったので、少しずつでも読んで参考にしたいです

探究ゼミ～軽井沢風越学園アウトプットデイから～

岩瀬直樹先生と学ぶ「探究ゼミ」は年5回の継続研修です。これまで『プロジェクトの学びでわたしをつくる(軽井沢風越ラーニングセンター編)』を参考図書とし、ミニ探究やチューニングなどで体験的に学んできた先生方が、軽井沢風越学園で行われたアウトプットデイに参加してきました。視察だけでなく、実際に子どもと関わり、子どもの話を聞き、そこから感じる良さや違和感などをもとに、自分の中にある“大切にしたい”こと見つめなおしました。多くの刺激を受けた先生方が、私立だからとか公立だからとかという枠を超え、子どもの学びとは何かを改めて考える一日となりました。



○参加者の感想

- ・実際に風越学園で、子どもたちの姿や環境を見せていただくことで、たくさんの気づきや自身が目指してきたこと改めて考えることができました。子どもたちに…子どもたちと何を大事にして日々過ごしていけばいいのか、教師のあり方やそのための環境整備をきちんともう一度考えていきたいと思います。
- ・～「開いている」なあと感じる子が多く、こんな子どもの姿に出会いたくてこの仕事をしているんだと改めて気づきました。開かれている理由の一つは、どの子どもどのスタッフも評価し評価されるということの外側にいることだと感じました。先生、学校、大人が望んでいる姿になるために、指導するというのをどうやったらやめられるか、子どもが自分らしく自分をどんどん開いていくためにどうしたらよいか、難しいですが大切に考えていきたいと思います。